

仕合わせの



第241号

令和4年4. 1
(毎月1日発行)

国の恩

合掌 住職 谷川寛俊

現在ロシアとウクライナの戦いが続いています。(三月二十日現在)

家を焼かれ、幼い子供たちが寒中泣きながら母親に抱かれ、国境を越えて非難を余儀なくされている報道を見るにつけ、一日も早い収束と平和な毎日が戻って来るよう祈ります。私達は日本の国に生を受けたことは不思議な因縁です。

日本の国は、日(ひ)出(い)ずる国、日(ひ)の本(もと)の国というところから日本と名づけられました。太陽の光が東から世界を照らしていくように、日本の光が世界を照らしていく国であるということです。そういう日本の国民として生まれ出たことを誇りに思わなければならぬと思います。

この国に生まれて父母の愛を受けて育てられ、教育を受けて成長し、



そしてそれぞれ使命を頂いて人生を生きています。その間に国から恩恵を受けてきたことは数多くあります。恩恵ばかりではありません。

戦争で被害を受けたり、天災地変に被災したりして平穏な時代ばかりでなく、不幸のどん底に落とされた時もありました。それでも私達は国のお陰で命をつないできました。そういう中で、平和日本の建設・世界平和に役立つ日本へと進んできた国のご恩は、ありがたく受け止めなければなりません。

日蓮大聖人は、人類の平和、人類の幸福を願い、そして国の恩を報ずるために「我れ日本の柱とならん」「我れ日本の眼目とならん」「我れ日本の大船(たいせん)とならん」と三大誓願を立てになりました。

今月二十八日が、この三大誓願をお生まれになられた房州小湊の清澄寺山頂に立ち、太平洋上から登り来る太陽

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

に向かつてお題目(南無妙法蓮華經)をお唱えになられたのでした。(日蓮宗の始まり)

昭和三十一年(1996年)十二月、日本の総理大臣に就任された石橋湛山氏は、日蓮宗のお寺の生まれで、中学時代甲府中学(現在の甲府一高)に通っていました。お寺から甲府までの間には、河原などで道草をする所が沢山ありました。当時の石橋少年は、大自然の中で遊び過ぎてつい学校を欠席がちになり、二年も留年したそうです。五年生なった時、甲府中学へ赴任してきたのが大島正憲校長でした。大島校長は、札幌農学校(現在の北海道大学)の第一期生としてクラーク博士の教育を受けた人でした。クラーク博士の「少年よ大志をいだけ(ポイズ・ビー・アンビシャス)」の教えを甲府中学の生徒たちに伝えました。それに感動した石橋少年は、小さい時から聞いていた日蓮大聖人の三大誓願「我れ日本の柱とならん、眼目とならん、大船とならん」とのお言葉を書いて自分の部屋に掲げました。それからの石橋少年は、生まれ変わったように勉強に励んだと言われます。この三大誓願を自分の誓願として、日本の平和の為、世界人類の平和の為に生涯を捧げられたのでした。その功績は、没後五〇年経った今もその精神は、受け継がれています。

